

平成 23 年 11 月 25 日
みどり生命保険株式会社

平成 23 年度第 2 四半期業績のお知らせ

みどり生命保険株式会社の平成 23 年度第 2 四半期の業績につき、別紙のとおりお知らせいたします。

主要業績指標	平成 23 年度第 2 四半期
契約高	
保有契約高	70,152 百万円
新契約高	12,960 百万円
年換算保険料	
保有契約	2,655 百万円
新契約	486 百万円
保険料等収入	1,627 百万円
事業費	381 百万円
第 2 四半期純利益	346 百万円
総資産	13,092 百万円
基礎利益	339 百万円
ソルベンシー・マージン比率	16,977.1%

なお、証券化商品等への投資およびサブプライム関連投資について該当事項はございませんので、あわせてお知らせいたします。

以上

お問い合わせは、次にお願いたします。

東京都北区王子 6-3-43
みどり生命保険株式会社
TEL : 03-5902-3955 (総務部)

平成 23 年度第 2 四半期(上半期)報告

みどり生命（社長：齋藤 秀市）の平成 23 年度第 2 四半期(上半期)の業績は添付のとおりです。

※資料中、「第 2 四半期（上半期）」は「4 月 1 日～9 月 30 日」を、「第 2 四半期会計期間」は「7 月 1 日～9 月 30 日」を表しております。

<目 次>

1. 主要業績	…… 1 頁
2. 一般勘定資産の運用状況	…… 3 頁
3. 資産運用の実績（一般勘定）	…… 4 頁
4. 中間貸借対照表	…… 8 頁
5. 中間損益計算書	……12 頁
6. 中間株主資本等変動計算書	……14 頁
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	……17 頁
8. 債務者区分による債権の状況	……18 頁
9. リスク管理債権の状況	……18 頁
10. ソルベンシー・マージン比率	……19 頁
11. 特別勘定の状況	……21 頁
12. 保険会社及びその子会社等の状況	……21 頁

以 上

1. 主要業績

(1) 保有契約高及び新契約高

・保有契約高

(単位：千件、百万円、%)

区 分	平成22年度末		平成23年度 第2四半期(上半期)末			
	件 数	金 額	件 数	金 額		
				前年度 末比	前年度 末比	
個人保険	104	63,812	116	111.8	70,152	109.9
個人年金保険	—	—	—	—	—	—
団体保険	—	—	—	—	—	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—

・新契約高

(単位：千件、百万円、%)

区分	平成22年度 第2四半期(上半期)				平成23年度 第2四半期(上半期)					
	件 数	金 額			件 数	金 額				
		新契約	転換による 純増加			前年 同期比	前年 同期比	新契約	転換による 純増加	
個 人 保 険	22	14,275	14,275	—	20	89.3	12,960	90.8	12,960	—
個人年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
団 体 保 険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(2) 年換算保険料

・保有契約

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度末	平成23年度 第2四半期 (上半期)末	
			前年度 末比
個人保険	2,353	2,655	112.8
個人年金保険	—	—	—
合 計	2,353	2,655	112.8
うち医療保障・ 生前給付保障等	—	—	—

・新契約

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度 第2四半期(上半期)	平成23年度 第2四半期(上半期)	
			前年 同期比
個人保険	508	486	95.7
個人年金保険	—	—	—
合 計	508	486	95.7
うち医療保障・ 生前給付保障等	—	—	—

(注) 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。

(3) 主要収支項目

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度 第2四半期(上半期)	平成23年度 第2四半期(上半期)	
			前年 同期比
保険料等収入	938	1,627	173.4
資産運用収益	116	140	120.9
保険金等支払金	7	40	540.2
資産運用費用	69	60	87.3

(4) 総資産

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度末	平成23年度 第2四半期 (上半期)末	
			前年度 末比
総 資 産	11,744	13,092	111.5

2. 一般勘定資産の運用状況

(1) 運用環境

平成 23 年 7-9 月期実質 GDP は、東日本大震災で落ち込んだ自動車の輸出の急速な回復などから、前期比+6.0%（年率換算）と 4 四半期ぶりにプラス成長となり、日本経済は持ち直しの動きが続いています。ただ、今後の日本経済は、欧州の信用不安、歴史的円高、タイ洪水被害などから下振れリスクが強まっており、予断を許さない状況にあります。

国内金利（10 年国債利回り）は、4 月中旬には 1.33%でしたが、急激な円高などにより低下基調となり、8 月中旬には 0.97%まで低下しました。その後は、1%周辺のボックス圏となり、9 月末には 1.02%となりました。

(2) 運用方針

現況の 1%周辺の金利水準において、債券投資を積極的に行うと、今後の金利上昇リスクが大きいと予想されます。現在のところ当社では、資本金の運用が主体になっていますので、安全性を重視し債券投資による金利上昇リスクを回避するため、9 月末では現・預金に 72 億円積み上げています。

ただ、安全性だけでなく収益性の向上を図るために、徐々にポートフォリオの多様化も進めています。その結果、9 月末では特定金銭信託 3 億円、貸付 2 億円、国債 29 億円、社債 1 億円、不動産投資 19 億円に分散投資をしています。

(3) 運用実績の概況

資産運用関係収益は、預金、有価証券、貸付のインカム収入が 32 百万円、特金の収益が 8 百万円、不動産賃貸収入 99 百万円等の計 140 百万円となりました。

資産運用関係費用は、不動産関係の費用 36 百万円、不動産減価償却費 24 百万円、計 60 百万円となりました。

その結果、資産運用収支残高は 79 百万円となりました。

3. 資産運用の実績（一般勘定）

(1) 資産の構成

（単位：百万円、％）

区 分	平成22年度末		平成23年度 第2四半期（上半期）末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現預金・コールローン	7,247	61.7	7,211	55.1
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	300	2.6	308	2.4
有 価 証 券	1,628	13.9	3,062	23.4
公 社 債	1,628	13.9	2,962	22.6
株 式	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—
そ の 他 の 証 券	—	—	100	0.8
貸付金	200	1.7	200	1.5
不 動 産	2,003	17.1	1,978	15.1
繰延税金資産	—	—	—	—
そ の 他	367	3.1	333	2.5
貸倒引当金	△2	0.0	△2	0.0
合 計	11,744	100.0	13,092	100.0
うち外貨建資産	—	—	—	—

（注）不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しております。

(2) 資産の増減

（単位：百万円）

区 分	平成22年度 第2四半期（上半期）	平成23年度 第2四半期（上半期）
現預金・コールローン	△857	△35
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	—	—
商品有価証券	—	—
金銭の信託	303	8
有 価 証 券	449	1,434
公 社 債	449	1,334
株 式	—	—
外 国 証 券	—	—
公 社 債	—	—
株 式 等	—	—
そ の 他 の 証 券	—	100
貸付金	200	0
不 動 産	313	△24
繰延税金資産	—	—
そ の 他	343	△34
貸倒引当金	△2	—
合 計	749	1,347
うち外貨建資産	—	—

（注）不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しております。

(3) 資産運用収益

(単位：百万円)

区 分	平成22年度 第2四半期（上半期）	平成23年度 第2四半期（上半期）
利息及び配当金等収入	113	132
預貯金利息	7	7
有価証券利息・配当金	13	17
貸付金利息	3	5
不動産賃貸料	88	99
その他利息配当金	—	2
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	3	8
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	—	—
国債等債券売却益	—	—
株式等売却益	—	—
外国証券売却益	—	—
その他	—	—
有価証券償還益	—	—
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	—
その他運用収益	—	0
合 計	116	140

(4) 資産運用費用

(単位：百万円)

区 分	平成22年度 第2四半期（上半期）	平成23年度 第2四半期（上半期）
支払利息	—	—
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	—	—
国債等債券売却損	—	—
株式等売却損	—	—
外国証券売却損	—	—
その他	—	—
有価証券評価損	—	—
国債等債券評価損	—	—
株式等評価損	—	—
外国証券評価損	—	—
その他	—	—
有価証券償還損	—	—
金融派生商品費用	—	—
為替差損	—	—
貸倒引当金繰入額	2	—
貸付金償却	—	—
賃貸用不動産等減価償却費	19	24
その他運用費用	48	36
合 計	69	60

(5) 売買目的有価証券の評価損益

該当事項がないため記載を省略しております。

(6) 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの）

（単位：百万円）

区 分	平成22年度末					平成23年度第2四半期（上半期）末				
	帳簿価額	時 価	差損益			帳簿価額	時 価	差損益		
			差 益	差 損	差 益			差 損		
満期保有目的の債券	1,628	1,636	8	8	—	2,962	3,044	82	82	—
責任準備金対応債券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	1,628	1,636	8	8	—	2,962	3,044	82	82	—
公 社 債	1,628	1,636	8	8	—	2,962	3,044	82	82	—
株 式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

・時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価額は以下のとおりです。

（単位：百万円）

区 分	平成22年度末	平成23年度 第2四半期（上半期）末
満期保有目的の債券	—	—
非上場外国債券	—	—
その他	—	—
責任準備金対応債券	—	—
子会社・関連会社株式	—	—
その他の有価証券	—	100
非上場国内株式（店頭売買株式を除く）	—	—
非上場外国株式（店頭売買株式を除く）	—	—
非上場外国債券	—	—
その他	—	100
合 計	—	100

(7) 金銭の信託の時価情報

(単位：百万円)

区 分	平成22年度末					平成23年度第2四半期(上半期)末				
	貸借対照表計上額	時 価	差損益			貸借対照表計上額	時 価	差損益		
			差 益	差 損	差 益			差 損		
金銭の信託	300	300	—	—	—	308	308	—	—	—

・運用目的の金銭の信託

(単位：百万円)

区 分	平成22年度末		平成23年度第2四半期(上半期)末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
運用目的の金銭の信託	300	7	308	8

- ・満期保有目的、責任準備金対応、その他の金銭の信託
該当事項がないため記載を省略しております。

4. 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	期 別	平成 23 年度 第 2 四半期会計期間末 (平成 23 年 9 月 30 日現在)	平成 22 年度末 要約貸借対照表 (平成 23 年 3 月 31 日現在)
		金 額	金 額
(資 産 の 部)			
現 金 及 び 預 貯 金		7,211	7,247
金 銭 の 信 託		308	300
有 価 証 券		3,062	1,628
(うち国債)	(2,962)	(1,628)
(うちその他の証券)	(100)	(—)
貸 付 金		200	200
有 形 固 定 資 産		1,983	2,009
無 形 固 定 資 産		5	7
代 理 店 貸		2	1
そ の 他 資 産		320	352
貸 倒 引 当 金		△2	△2
資 産 の 部 合 計		13,092	11,744
(負 債 の 部)			
保 険 契 約 準 備 金		3,079	2,073
支 払 備 金		10	24
責 任 準 備 金		3,069	2,048
代 理 店 借		23	18
そ の 他 負 債		170	179
未 払 法 人 税 等		—	1
そ の 他 の 負 債		170	178
そ の 他 の 引 当 金		1	2
価 格 変 動 準 備 金		1	1
負 債 の 部 合 計		3,276	2,275
(純 資 産 の 部)			
資 本 金		10,000	10,000
利 益 剰 余 金		△183	△530
そ の 他 利 益 剰 余 金		△183	△530
繰 越 利 益 剰 余 金		△183	△530
株 主 資 本 合 計		9,816	9,469
純 資 産 の 部 合 計		9,816	9,469
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計		13,092	11,744

注記事項

(貸借対照表関係)

平成23年度中間会計期間

1. 会計方針に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券（現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む）の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては9月末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有形固定資産

償却は定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）については定額法によっております。また、主な耐用年数は建物、建物付属設備及び構築物2～27年、車両及び什器備品2～20年であります。なお、その他の有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っております。

(3) 無形固定資産

償却は定額法によっております。なお、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しております。

(4) 貸倒引当金の計上基準

債権の貸倒による損失に備えるため、一般貸付金について経営上用いている合理的な貸倒見積額を計上しております。

(5) 保険業法第113条繰延資産

保険業法第113条繰延資産は定款の規定に基づき計上し、繰延事業年度から5年間で毎事業年度に均等額を償却しております。

(6) その他の資産

その他の資産は入会金であり償却期間5年で定額法により償却しております。

(7) 価格変動準備金の計上方法

価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

(8) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

(9) リース取引の処理方法

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(10) その他採用した重要な会計方針

① 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方法によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し、5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生年度に費用処理しております。

② 責任準備金の積立方法

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しております。

・標準責任準備金の対象契約については金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）

2. 重要な会計処理の原則及び手続の変更

当期より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号）並びにこれらに対応するために見直しが行われた「金融承認会計に関する実務指針」（会計制度委員会報告第14号）を適用しております。これにより株主変動計算書において、従来、前期末残高と表示していたものを当期首残高として表示しております。

3. 有形固定資産の減価償却累計額は151百万円であります。

4. 関係会社に対する、金銭債権の総額は6百万円であります。

5. 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当中間期末における当社の今後の負担見積額は14百万円であります。なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。

6. 1株当たりの純資産額は49,080円53銭であります。

7. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

注記事項

(金融商品関係)

平成23年度中間会計期間

1. 金融商品の状況に関する事項

保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、安全性と収益性を勘案しつつ極力リスクを抑えた運用をしております。この方針に基づき、当社が保有する金融商品は国債、金銭信託、特定社債及び貸付金であります。

有価証券は市場リスク及び信用リスクに晒されております。市場リスクの管理にあたっては、有価証券は国債と特定社債であり、現在は信用リスクはありません。

貸付金は特定目的会社向けの一般貸付であり、安定的な収益確保を目的に実施しておりますが、貸付金の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。なお、金銭信託は平成23年9月30日現在、キャッシュのみであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年9月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差異については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	7,211	7,211	-
(2) 未収入金	207	207	-
(3) 金銭信託	308	308	-
(4) 有価証券 満期保有目的の債券	2,962	3,044	82
(5) 貸付金	200	284	84
貸倒引当金	△2	-	-
	198	284	84
資産計	10,887	11,066	166

(注) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

1 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

3 金銭信託

当社の金銭信託は現預金、コールローン、並びに債券のみにより構成されております。これらの時価について、現預金及びコールローンは当該帳簿価額、債券は公表されている基準価格によっております。また、当社は運用目的の金銭信託のみ保有しております。なお、取得原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

種類	取得原価	貸借対照表計上額	差額
金銭信託	300	308	8

4 有価証券（預貯金・買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）に基づく有価証券として取り扱うもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む）、満期保有目的の債券は9月末日の市場価額等によっております。なお、特定社債については市場価額がないため有価証券に含めておりません。当該特定社債の当期末における貸借対照表価額は、100百万円であります。

5 貸付金

一般貸付のうち、固定金利貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値へ割り引いた価格によっております。

なお、貸付金については個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

注記事項

(賃貸等不動産)

平成23年度中間会計期間

当社では、京都府その他の地域において、賃貸用不動産を有しております。これら賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は、次のとおりであります。

中間貸借対照表計上額 (百万円)			中間貸借対照表日における時価 (百万円)
期首残高	当中間会計期間増減額	当中間会計期末残高	
2,001	-	1,976	1,931

- (注) 1 中間貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2 中間貸借対照表日における時価は、社外の不動産鑑定士による「不動産鑑定評価基準」に基づく金額によっております。

5. 中間損益計算書

(単位：百万円)

科 目	平成 22 年度 第 2 四半期累計期間 (平成 22 年 4 月 1 日から 平成 22 年 9 月 30 日まで)		平成 23 年度 第 2 四半期累計期間 (平成 23 年 4 月 1 日から 平成 23 年 9 月 30 日まで)	
	金 額		金 額	
経 常 収 益	1,225		1,907	
保 険 料 等 収 入 (うち保険料)	938 (938)		1,627 (1,627)	
資 産 運 用 収 益 (うち利息及び配当金等収入)	116 (113)		140 (132)	
(うち金銭の信託運用益)	(3)		(8)	
(うちその他運用収益)	(—)		(0)	
そ の 他 経 常 収 益	170		139	
経 常 費 用	1,082		1,560	
保 険 金 等 支 払 金 (うち保険金)	7 (2)		40 (15)	
(うち給付金)	(5)		(14)	
(うち解約返戻金)	(—)		(10)	
(うちその他返戻金)	(0)		(0)	
責 任 準 備 金 等 繰 入 額	541		1,020	
支 払 備 金 繰 入 額	—		—	
責 任 準 備 金 繰 入 額	541		1,020	
資 産 運 用 費 用	69		60	
事 業 費 用	410		381	
そ の 他 経 常 費 用	52		57	
経 常 利 益	142		346	
特 別 利 益	—		—	
特 別 損 失	0		0	
価 格 変 動 準 備 金 繰 入 額	0		0	
税 引 前 中 間 純 利 益	142		346	
法 人 税 及 び 住 民 税	—		—	
法 人 税 等 合 計	—		—	
中 間 純 利 益	142		346	

注記事項

(損益計算書関係)

平成23年度中間会計期間							
1. 関係会社との営業取引による取引高は33百万円であります。 2. 1株当たり当中間期純利益の金額は1,733円57銭であります。 3. 関連当事者との取引は次の通りであります。							
属性	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
主要株主(会社等)	株式会社 互助センター 友の会	被所有 50%	不動産 賃貸借契約 の締結	不動産賃貸 (注)1	26	前受収益	4
				不動産賃借 (注)1	3	敷金差入 保証金	44
			ソフト ウェア 使用契約の 締結	ソフト ウェア 使用料	3	未払費用	6
主要株主(会社等)及び役員が議決権の過半数を所有している会社等	株式会社 セレマ (注)2	なし	不動産 賃貸借契約 の締結	不動産賃貸 (注)1	72	預り 保証金	71
			出向者派遣 契約の締結	受入出向者 労務費の 支払(注)3	9	未払費用	1
役員が議決権の過半数を所有している会社等	(株)いまそう (注)4	なし	金銭消費 貸借契約の 締結	資金の貸付 (注)5	200	長期貸付金	-
				利息の受取 (注)5	0	前受収益	-
役員が過半数の出資をしている団体	全日本みどり 共済会	なし	業務及び財 産の管理の 委託の締結	管理受託料 の受取 (注)6	58	未収金	9
	新日本みどり 共済会		業務及び財 産の管理の 委託の締結	管理受託料 の受取 (注)6	66	未収金	10
取引条件及び取引条件の決定方針等 (注) 1 不動産賃貸借費用等については市場価格を勘案し、一般取引条件と同様に決定しております。 2 当社役員が議決権の50.52%を保有しております。 3 受入出向者の労務費は株式会社セレマの従業員の給与水準および出向従業員の給与支給額を勘案し、両者協議の上決定しております。 4 当社役員が議決権の55%を保有しております。 5 資金の貸付けについては市場金利を勘案して利率を決定しております。 6 管理受託料については、両者合意の上、料率を合理的に決定しております。 7 取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれております。							
4. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。							

6. 中間株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科 目	平成22年度 中間会計期間 〔平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで〕	平成23年度 中間会計期間 〔平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで〕
	株主資本	
資本金		
当期首残高	10,000	10,000
当中間期変動額		
当中間期変動額合計	—	—
当中間期末残高	10,000	10,000
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	—	—
当中間期変動額		
当中間期変動額合計	—	—
当中間期末残高	—	—
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	△1,117	△530
当中間期変動額		
中間純利益	142	346
当中間期変動額合計	142	346
当中間期末残高	△974	△183
利益剰余金合計		
当期首残高	△1,117	△530
当中間期変動額		
中間純利益	142	346
当中間期変動額合計	142	346
当中間期末残高	△974	△183
株主資本合計		
当期首残高	8,882	9,469
当中間期変動額		
中間純利益	142	346
当中間期変動額合計	142	346
当中間期末残高	9,025	9,816
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△4	—
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	48	—
当中間期変動額合計	48	—
当中間期末残高	44	—

評価・換算差額等合計		
当期首残高	△4	—
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	48	—
当中間期変動額合計	48	—
当中間期末残高	44	—
純資産合計		
当期首残高	8,878	9,469
当中間期変動額		
中間純利益	142	346
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	48	—
当中間期変動額合計	190	346
当中間期末残高	9,069	9,816

注記事項

(株主資本等変動計算書関係)

平成23年度中間会計期間

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当期首 株式数	当期増加 株式数	当期減少 株式数	当期末 株式数
発行済株式				
普通株式	200	—	—	200
合計	200	—	—	200

2. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

	平成22年度 第2四半期（上半期）	平成23年度 第2四半期（上半期）
基礎利益 A	140	339
キャピタル収益	3	8
金銭の信託運用益	3	8
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	—	—
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	—
その他キャピタル収益	—	—
キャピタル費用	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	—	—
有価証券評価損	—	—
金融派生商品費用	—	—
為替差損	—	—
その他キャピタル費用	—	—
キャピタル損益 B	3	8
キャピタル損益含み基礎利益 A+B	143	347
臨時収益	—	—
再保険収入	—	—
危険準備金戻入額	—	—
個別貸倒引当金戻入額	—	—
その他臨時収益	—	—
臨時費用	1	0
再保険料	—	—
危険準備金繰入額	1	0
個別貸倒引当金繰入額	—	—
特定海外債権引当勘定繰入額	—	—
貸付金償却	—	—
その他臨時費用	—	—
臨時損益 C	△1	△0
経常利益 A+B+C	142	346

8. 債務者区分による債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度末	平成23年度 第2四半期(上半期)末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	—	—
危険債権	—	—
要管理債権	—	—
小計 (対合計比)	(—)	(—)
正常債権	200	200
合計	200	200

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 要管理債権とは、3か月以上延滞貸付金及び条件緩和貸付金です。なお、3か月以上延滞貸付金とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸付金(注1及び2に掲げる債権を除く。)、条件緩和貸付金とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金(注1及び2に掲げる債権並びに3か月以上延滞貸付金を除く。)です。
4. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

9. リスク管理債権の状況

該当事項がないため記載を省略しております。

10. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	平成22年度末	平成23年度 第2四半期 (上半期)末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	11,010	11,838
資本金等	9,366	9,737
価格変動準備金	1	1
危険準備金	5	6
一般貸倒引当金	2	2
その他有価証券の評価差額×90% (マイナスの場合100%)	—	0
土地の含み損益×85% (マイナスの場合100%)	△34	△51
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	1,669	2,142
持込資本金等	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
控除項目	—	—
その他	—	—
リスクの合計額	155	139
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)		
保険リスク相当額 R1	1	2
第三分野保険の保険リスク相当額 R8	3	3
予定利率リスク相当額 R2	0	0
資産運用リスク相当額 R3	150	134
経営管理リスク相当額 R4	4	4
最低保証リスク相当額 R7	—	—
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	14,179.5%	16,977.1%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条及び第190条、平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

(参考) 新基準によるソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	平成22年度末	平成23年度 第2四半期 (上半期)末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	11,010	11,838
資本金等	9,366	9,737
価格変動準備金	1	1
危険準備金	5	6
一般貸倒引当金	2	2
その他有価証券の評価差額×90% (マイナスの場合100%)	—	0
土地の含み損益×85% (マイナスの場合100%)	△34	△51
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	1,669	2,142
負債性資本調達手段等	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
持込資本金等	—	—
控除項目	—	—
その他	—	—
リスクの合計額	223	228
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)		
保険リスク相当額 R1	1	2
第三分野保険の保険リスク相当額 R8	3	3
予定利率リスク相当額 R2	0	0
資産運用リスク相当額 R3	216	221
経営管理リスク相当額 R4	6	6
最低保証リスク相当額 R7	—	—
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	9,837.1%	10,367.4%

(注) 平成22年内閣府令第23号、平成22年金融庁告示第48号により、ソルベンシー・マージン総額及びリスクの合計額の算出基準について一部変更（マージン算入の厳格化、リスク計測の厳格化・精緻化等）がなされております。当該変更は平成23年度末から適用されます。上記は、仮に当該変更を平成22年度末及び平成23年度第2四半期（上半期）末に適用したと仮定した場合の数値です。

1 1. 特別勘定の状況

該当事項がないため記載を省略しております。

1 2. 保険会社及びその子会社等の状況

該当事項がないため記載を省略しております。